

川治温泉地区

◆目標とする街並み

おもてなしの心が息づく湯の郷の街並み

◆まちづくりの心得

心得1 歴史ある湯治場の雰囲気演出しましょう

心得2 歩いて楽しめる温泉街を演出しましょう

心得3 水を活かした美しい景観をつくりましょう

◆まちづくりの作法

作法1 蔵造りを中心とした「和」のデザインを活用しましょう

作法2 光沢感やつやのある素材は避け、自然素材を積極的に活用しましょう

作法3 川沿いの建物は、対岸や橋からの眺望にも配慮しましょう

作法4 川治温泉共通のアイテムを積極的に活用しましょう

作法5 ふれあいある魅力的な店先空間をつくりましょう

作法6 水やみどりで、潤いある空間をつくりましょう

作法7 温泉街の風情を感じさせる美しい夜景を演出しましょう

※全地区共通のガイドラインと併せてご活用下さい。

◆目標とする街並み ～地区の皆さんが描く街並みの将来像～

おもてなしの心が息づく 湯の郷の街並み

川治温泉地区では、17世紀末から続く温泉街としての歴史性を活かすと共に、男鹿川・鬼怒川の溪谷や周囲を取り囲む山々の自然美と街並みとの調和を図ることで、来訪者だけでなく、地区で生活する人も心癒される、おもてなしの心が息づく街並みを目指しましょう。

◆川治温泉地区の景観資源 ～川治温泉地区で大切にしていきたいもの～



心得 1

歴史ある湯治場の雰囲気演出しましょう

川治温泉には古くからの温泉保養地としての歴史があります。また、“小粋な川治”をテーマに、蔵造りの街並み形成を進めた実績もあり、その当時つくられた蔵造りの建物は、まちの歴史を感じさせる要素のひとつとなっています。歴史ある湯治場の雰囲気をまち全体で感じられるような街並みをつくりましょう。

心得 2

歩いて楽しめる温泉街を演出しましょう

のんびりとまちを行き交う人も、温泉街ならではの景観のひとつです。まち全体で「歩いて楽しめる環境」をつくり、来訪者の回遊性を高めることで、にぎわいある雰囲気を創出しましょう。

また、来訪者との交流を促し、まち全体で「おもてなしの心」が感じられる雰囲気をつくっていきましょう。

心得 3

水を活かした美しい景観をつくりましょう

川治温泉地区は、五十里湖や龍王峡、鬼怒川、男鹿川など、美しい水の景観に恵まれています。また、温泉も身近な存在として生活の中で活かされています。

水との関わりが深いこのような環境を大切に、今後もより身近に水を感じられる魅力的な景観をつくりましょう。

◆まちづくりの作法 ～「目標とする街並み」を実現するための具体的な方法～

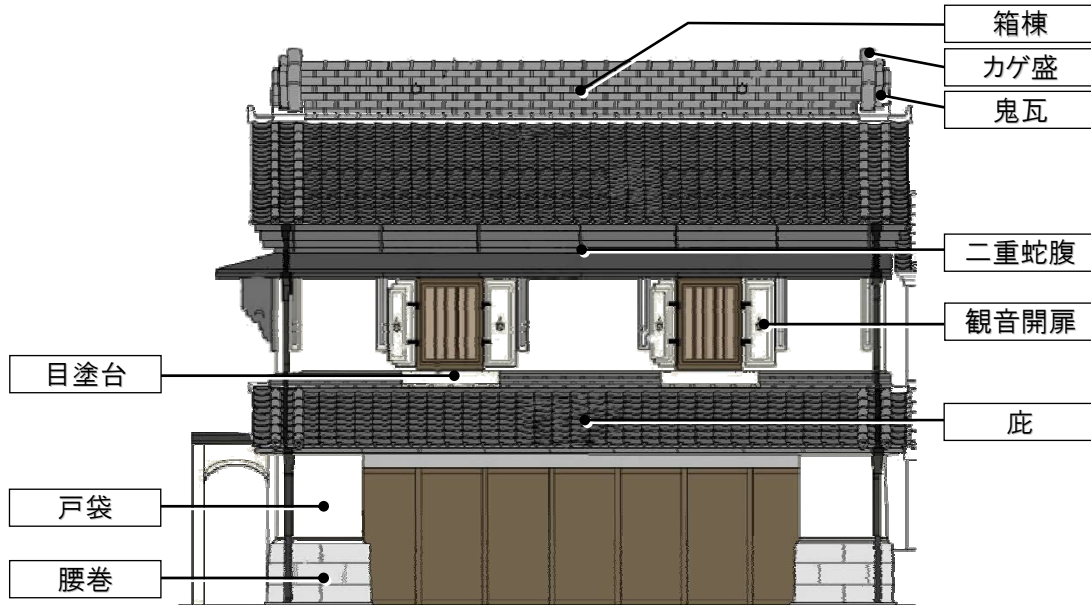


作法1 蔵造りを中心とした「和」のデザインを活用しましょう

■蔵造りのデザイン

瓦屋根、白壁・土壁、格子、庇など「和」のデザインを活用し、街並みを形成していきましょう。
ここでは、商品などの保管・貯蔵を目的とした倉庫としての蔵ではなく、店舗兼住宅として使うことを目的として建てられる『見世蔵・店蔵(みせぐら)』を参考にしましょう。

見世蔵・店蔵は、商店部分の間口や住居部分の窓などの開口部が設けられており、装飾的な要素も兼ね備えた工夫が随所に見られます。



■地区内にある蔵造りのデザインを活用した建物





作法 2

光沢感やつやのある素材は避け、 自然素材を積極的に活用しましょう

■自然素材の効果

自然素材は時間が経てば経つほど、その風合いや味わいが増し、色や質感が風景に、人に馴染んでいきます。特に、人が触れる部分(柱や手すり、扉・戸、ベンチなど)は、自然素材を使うことで時間の経過を肌で感じる事ができ、ものに対する愛着を深めることにつながります。

■自然素材と光

光沢感やつやのある素材は、光を受けてそのまま反射させるため、まぶしさを感じさせたり、局所的な明るさを与えますが、自然素材の多くは光を受け止めるため、より素材そのものの色合いや質感が感じられ、柔らかな明るさをもたらします。

■活用上の工夫

自然素材の活用が難しい場合は、色合いや材質などが自然素材に近い建材を用いる、表面の仕上げに趣向を凝らす、自然素材とうまく組み合わせる等の工夫をしましょう。

■地区内で自然素材を活用した建物の例



▲木材を活かした壁面



▲木材と新建材を組み合わせた建物



▲木製の行灯と石積みで演出されたエントランス



▲木製の看板と木の疑似色を用いた看板



作法3 川沿いの建物は、対岸や橋からの眺望にも配慮しましょう

■川に背を向けない建て方

川沿いの建物は、旅館やホテルに限らず、対岸や橋からの眺望に配慮した意匠とするなど、建て方を工夫しましょう。

特に、遊歩道沿いの建物は、遊歩道とつながる、あるいは一体的な活用が可能な“引き”のスペースをつくるなど、川を身近に感じられる工夫をしましょう。

【現況】



▲建物及び敷地と川沿いの遊歩道とに、一体感や連続性が感じられない。

【川沿いの引きのスペースのイメージ】



▲川側に緑豊かな“引き”のスペースを設けています。



作法4 川治温泉共通のアイテムを積極的に活用しましょう

■イメージカラーやイメージキャラクターの活用

温泉街らしい、まちの共通のデザインを積極的に活用することで、川治温泉地区の個性を表現するとともに、まち全体の統一感、一体感を創出しましょう。



▲イメージキャラクターとそれを用いたのぼり



▲現在用いられている共通の太鼓幕



■街並みの修景シミュレーションイメージ

【現況】



▲様々な色や素材の看板が散りばめられた街並み

【修景イメージ】



▲屋根や壁面、看板の色彩や素材を修景し、太鼓幕を活用した街並み



作法5 ふれあいある魅力的な店先空間をつくりましょう

■店先空間のイメージ

ベンチなどを設けた交流・憩いのスペースを確保したり、道に対してできるだけ開放的な空間づくりを心がけることで、より魅力的な店先空間となります。

休憩スペースを利用する方自身が、にぎわいを演出する景観要素のひとつとなります。



人や商品、調理場や作業場などを積極的に見せるような空間づくりに努めることで、音や香りなどお店の魅力を五感で感じることができます。

店先を開放的にすることで、お店の人や商品が見える安心感が生まれ、立ち寄りやすいお店となります。

■縁側の活用

縁側を活用することで、建物と道路との間のスペースにゆとりがなくとも、魅力的な店先空間、交流空間をつくることができます。



▲縁側を活用した建物と沿道空間との関係



作法6 水やみどりで、潤いある空間をつくりましょう

■水やみどりによる演出のイメージ

水やみどりは、街並みを彩り、まち行く人を和ませます。また、玄関先を魅力的に演出することで、商店だけでなく、生活している人の心づかいも感じられ、生活の豊かさ、人の豊かさが垣間見えます。

特に、緑の演出は、山野草を用いると川治らしさがより引き立ちます。

みどりや花々、水音が、街並みに変化のある彩りと生き生きとした印象を加えます。



作法7 温泉街の風情を感じさせる美しい夜景を演出しましょう

■魅力的な夜景のイメージ

安全で美しい夜の街並みを演出するため、蔵造りを中心とした「和」の街並みに調和した行灯などの照明を設けましょう。

また、温泉街の風情を感じさせるよう、温かみのある電球色の光源を用いましょう。

建物から漏れる光を見せることで、建物の中のにぎわいや温かさも外に溢れ、屋内外隔てなくにぎわっている雰囲気を創出できます。



温かみのある光源を用いた行灯で足元を照らし、夜にしか感じるできない「光の道」を創ります。

■地区内の風情を感じさせる照明



▲竹をモチーフにしたり、素材として活用した照明